

### (3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないこと。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けること。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下とすること。

NITS・教職大学院・教 育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 常葉大学大学院 学校教育研究科
	事業名：【NITS・常葉大学教職大学院コラボ研修】 教師自身の「主体的で対話的な学びの場」となるコラボ研修 学校の外から考える「働き方改革」
	開催日時：令和7年12月22日(月)13時50分～16時30分 開催場所：常葉大学(静岡県静岡市駿河区弥生町6番1号) 参加人数(総数)と参加者の属性：(42人)一般教員8人、行政職員2人、一般市民1人、他大学の教員1人、大学生2人、大学院生20人、大学教員6人、大学職員2人

#### 目的：

- 参加者にとって「主体的で対話的な学びの場」となる研修を目指す。  
「教師自身の「主体的で対話的な学びの場」となるコラボ研修」をテーマとし、グループワークを活動の主軸とすることで、参加者を主語とした研修を目指す。
- 一般企業における働き方改革を知ることで、自身の学校における働き方改革について考える。  
ヤマハ発動機株式会社で多種多様な業務に関わってきた河合多真美氏を講師として招き、ヤマハという企業における働き方改革の考え方やその具体を知る中で、学校での働き方改革はどうあったらよいか、一つ高い視座から考える機会とする。

#### 内容：

- グループの顔合わせ  
開会行事終了後、研修への参加目的別に分かれた5～6人のグループで、研修目的や研修に期待すること等を交えながら互いに自己紹介を行った。
- 講師の講話  
「学校の外から考える「働き方改革」というテーマで、ヤマハ発動機株式会社の河合多真美氏の講話を伺った。動画等を交えたプレゼンを通して、ヤマハという企業で大切にしていること、働き方改革の考え方やその具体等を知り、講師との対話も交えながら学校における働き方改革について考えた。
- グループ協議  
講師の講話を受け、研修への参加目的に基づいて構成されたグループごと、働き方改革に関する参加者自身の気付きや考え方の変容等について意見交換をした。
- グループ発表  
グループで話し合ったことを発表した。河合氏の講話から得た新たな学びについてはもちろんのこと、明日から自校で取り組みたいこと等、学校における働き方改革に関する意見が多数出された。
- 講師の講評  
グループ発表を受け、河合氏が講評を行った。学校の価値を捉え直すことが重要であるという新たな視点をいただくことができた。講師講評の後には閉会行事を行い、研修を閉じた。

#### 成果：

- 一般企業における働き方改革について知ることができた。  
(参加者の声)・企業側の視点から得られる知見を獲得でき、有意義だった。
  - ・AI化が進む現代社会で忘れてはいけない根幹の部分学ぶことができた。
  - ・普段、学校現場以外の方の働き方について話を聞く機会はないので、とても貴重だった。
  - ・働き方改革として進められた制度の良い面だけでなく課題にも気付かされた。
- 働き方改革における新たな視点を獲得することができた。  
(参加者の声)・「価値」から考えることは、働き方改革を進める上で忘れてはいけないことだと認識した。
  - ・「目指す姿から考えていく」、「小さく試して素早く改善」という考え方は、学校現場にも通ずるものと思った。
- 自身の働き方改革に対する意識が高まった。  
(参加者の声)・外からの改革を待つのではなく、自らがどこの無駄を省き、どこに価値を置くかというように考えることができ、自身のキャリアアップにつながった。
  - ・ヤマハの柔軟な取り組みを知ることができ、明日から取り入れたいことが沢山あった。小さく試し、素早く改善していきたい。

## 「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

### 1 一般企業の視点から学校について考えることの意義

アンケート結果では、若干の未回答があったものの全員がポジティブな評価をしており、研修会が好評であったことがうかがえた。その大きな要因は、企業の視点から学校の働き方改革について考えるという「視点の新鮮さ」にあったように思う。現に自由記述では、「学校の内側から考えていた働き方改革を企業側から考えることで、勉強になった」という意見が多数見られた。講師は、「学校の働き方改革はこうあるべきだ」というようなことは一言も言わなかったが、参加者一人一人が自分のことに置き換え、働き方改革における不易の部分を見いだしていたようだ。

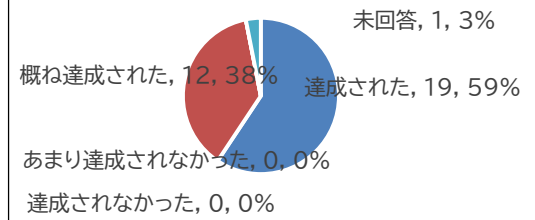
### 2 参加者の視聴覚に訴えることによる

講話では、講師がヤマハ発動機で取り組んでいる働き方改革の具体を聞くとともに、ヤマハの企業精神を伝えるプレゼン動画も視聴した。この動画が一編の映画を見るようで、非常に感動的であった。また、講話の話した内容ともつながり、働き方改革に対するイメージを膨らめる上でも大変効果的であった。参加者の視聴覚に訴えることによるよさを再認識することができた。

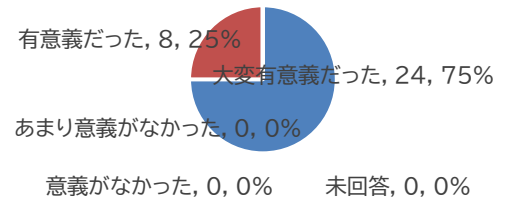
### 3 違った立場の参加者同士が討議することの意義

今回の研修会では、講師の意向により、講話の中にもグループによる討議の時間を設定した。そのため、タイムリーに講話の内容について参加者同士で情報交換、意見交換をすることができた。グループには、大学生、大学院生、現職教員、行政職員等、様々な立場の参加者がおり、多種多様な意見が出された。また、参加者自身も「他の参加者はどのような意見をもっているのだろうか」と、他者の意見に対する興味・関心を高めたようである。一つの話題について、違った立場から多面的に話し合うことが深く広い学びにつながる感じた。

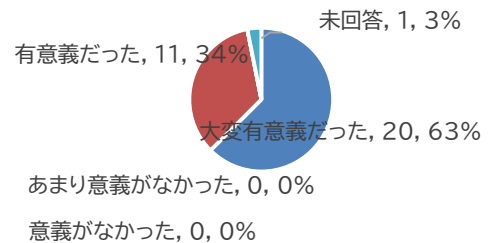
#### 研修への参加目的の達成度



#### 講義の有意義性



#### グループワークの有意義性



## アイデアや工夫したこと：

### 1 研修への参加目的を事前に聴取し、その目的に応じて研修の振り返りをしてもらったこと

本研修に参加する参加者の意識を高めるとともに、主催者として参加者のニーズを確認するため、事前に一人一人から研修への参加目的を聴取した。また、その状況を研修実施前に講師にも伝え、講話に生かしてもらえるようにした。参加者の研修への参加目的は下記の通りである（大学教員分は含まず）。

- ・企業の視点から、学校における働き方改革について考えたい。（17人）
- ・民間の働き方改革にDXやAIがどう寄与しているか知りたい。（1人）
- ・自校の働き方改革に生かしたい。（6人）・自分自身の働き方を見つけ直したい（6人）
- ・研修を機に、自身のキャリアアップを図りたい。（6人）

### 2 参加目的別に分けたグループによるグループワークを活動の主軸としたこと

グループワークを活動の主軸にし、講話もグループワークの中に組み入れる形にした。加えて、講話の前に、グループ内で互いに自己紹介する場面を設定した。それにより、グループとしての親密度が高まり、グループ協議にもスムーズに入っていくことができた。また、同じ参加目的の者でグループを組んだことにより、より具体的でつこんだ話し合いをすることができた。また、グループ内での話し合い内容を確認しながら記録するツールとして、円形ホワイトボード（えんたくん）を用いた。



講師講話の様子



グループ協議の様子



グループ発表の様子